

2021 年度第 3 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q1 : 航空宇宙システムにおける 2021 年度通期見通しについて、新型コロナウイルスのオミクロン株による航空需要の低下や、ボーイング 787 型機の生産レートが停滞していることによる計画未達リスクはありますか。</p>	<p>A1 : オミクロン株の蔓延による影響や 787 型機のプロセスの状況は、2Q 決算時点で発表した会社計画に対し、概ね想定範囲内で推移しており、現時点で通期の売上・営業利益計画を変更する必要はないと判断しています。</p>
<p>Q2 : 航空宇宙事業において、今後民間航空機関連の製造設備に係る減損損失を計上するリスクはありますか。</p>	<p>A2 : 現時点で、民間航空機関連設備の減損処理は想定していません。</p>
<p>Q3 : 車両における 2021 年度 3Q の営業利益が、前年同期比で改善した理由を教えてください。 ※営業利益：▲13 億円 (20 年度 3Q) →25 億円 (21 年度 3Q)</p>	<p>A3 : 2020 年度には、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、北米において工場の操業停止や顧客の検収遅延が発生し収益性が低下しました。2021 年度は事態の収束にともない生産・納入が順調に進捗しているほか、部品サービスや保守分野の売上増も収益性改善に寄与しています。</p>
<p>Q4 : 2021 年 10 月に発生したワシントン地下鉄 7000 系の脱線事故について、最新の状況を教えてください。</p>	<p>A4 : 引き続き国家運輸安全委員会による原因調査に協力していますが、現時点において当該脱線の発生原因は特定されておらず、当社責となる過失も発見されていません。</p>
<p>Q5 : 車両における 2021 年度通期の営業利益見通し (30 億円) について、その達成確度を教えてください。</p>	<p>A5 : 北米での車両事業において、全社タスクフォースによる各種生産改善活動を継続中であり、2021 年度通期計画の未達リスクは大きくないと考えています。</p>
<p>Q6 : 損失を計上した船舶中国合併会社の今後の見通しを教えてください。</p>	<p>A6 : 損失の原因となった鋼材価格の高騰および元高ドル安の状況は、足元ではいずれも落ち着きを見せつつあります。</p>
<p>Q7 : 精密機械・ロボットにおける 2021 年度通期の営業利益見通しについて、190 億円から 160 億円に下方修正した理由を教えてください。</p>	<p>A7 : 精密機械事業において、中国の建設機械需要の減少傾向が認められること、およびロボット事業において、半導体不足や物流混乱に起因するコスト悪化が見込まれるためです。</p>
<p>Q8 : メディカロイド社の手術支援ロボット「hinotori」について、事業の進捗を教えてください。</p>	<p>A8 : 「hinotori」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で当初の見込みから遅れはあるものの、概ね順調に納入が進んでおり、手術症例数は 100 例を超えました。 2021 年 10 月には、現在診療科として認証されている泌尿器科に加えて、消化器外科と婦人科への拡大申請を行っており、これが承認されれば、より多くの施設や術式で利用可能になります。</p>

2021 年度第 3 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q9 : モーターサイクル&エンジンにおける営業利益率の推移について、2021 年度 2Q（6～9 月期）に比べて 3Q（10～12 月期）が改善した理由と、4Q（1～3 月期）に再び悪化する見通しとしている理由を教えてください。 ※13.0%(1Q)→4.0%(2Q)→10.8%(3Q)→7.9%(4Q 予)</p>	<p>A9 : 3Q 実績においては、リスク要因の一つであった半導体不足の状況を改善できたことや、売上好調により販売促進費用が想定を下回ったこと、および価格改定により収益性が向上しました。 4Q 計画においては、半導体不足、物流混乱、原材料高に加え、新型コロナウイルスオミクロン株の蔓延による操業減のリスクを織り込んでいます。</p>
<p>Q10 : モーターサイクル&エンジンにける 2021 年度売上高について、四輪車・PWC（水上バイク）の見通しを 1,120 億円から 1,020 億円に下方修正した理由を教えてください。</p>	<p>A10 : 半導体部品の不足による生産の滞りや物流混乱による販売減が見込まれるためです。</p>
<p>Q11 : 2021 年度通期の営業損益予想について、「調整額」を▲70 億円から▲40 億円に上方修正した理由を教えてください。</p>	<p>A11 : サイバーセキュリティや DX 対応の今年度の費用の見通しがついたことや、外部環境の変化に備えたリスク対応費用を一部取り崩したことによるものです。</p>
<p>Q12 : 自動 PCR 検査ロボットシステム事業の実績および見通しを教えてください。</p>	<p>A12 : 検査数の増加に伴って売上高は増加していますが、営業利益への貢献は大きくありません。引き続き、本事業を通じて人流回復による社会経済活動の活性化を目指していきます。</p>

以上